

浦添の記憶と記録

平和について考えたとき、あなたは何を思い浮かべますか？

満州事変から始まる十五年戦争の最後にして最大の地上戦で、20万余の尊い命が奪われた「沖縄戦」は戦争による悲劇を繰り返さないためにその凄惨さが語り継がれてきました。

浦添の戦災は『浦添市史』の編集によって調査されました。人を集めて話を聞く「シマ語れー（故郷を語り合う）会」を開くなど、全数調査によって多くの証言を聞き取って記録したこの市史は、それまでに前例がない地域史として「浦添方式」と呼ばれました。その証言記録の編集に携わった沖縄国際大学名誉教授の石原 昌家氏に、本の中から記憶と記録の一部を紹介してもらいました。



6.23 平和講演会「戦場になった浦添」

6月23日慰霊の日は、沖縄戦で日本軍の組織的な戦闘が終結した日として、県の条例で定められ、戦争で亡くなった人たちをなくさめ、平和を祈る日として沖縄県民に広く浸透しています。

去る大戦で、激しい地上戦が展開され、住民9,226人のうち4,117人（調査後の追加含む）もの犠牲者を出した悲しい歴史をもつ浦添市から、これからも平和を求め、発信していくために平和講演会を開催します。

この講演を通して平和について考え、ご家族、ご友人など、親しい人と話し、ともに争いのない世の中をつくりましょう。

- 日 時／6月23日（金）慰霊の日
開場 午後1時
開演 午後2時（2時間程度）※パネル展示等あり
- 講 師／石原 昌家氏（沖縄国際大学名誉教授）
- 場 所／てだこホール 市民交流室
- 参加費／無料
- 定 員／100人

問 国際交流課 ☎（876）1258



▲多くの証言記録を残す『浦添市史』第五巻ほか

その他の平和を考えるイベント

6月18日（日） 参加者募集

前田高地の戦跡巡り

沖縄戦の激戦地となった前田高地に残る戦跡を、うらおそい歴史ガイドが案内します。



▲前田高地平和之碑でガイドの説明を聞く参加者

- 当日の受付時間
午前8時30分～9時
※出発は受付次第随時、終了は正午を予定
- 集合場所
浦添グスク・ようどれ館
- 対 象
小学生以上
（小学生は保護者同伴）
- 参加費
1人300円（保険料など）
- 定 員
先着50人（予約制）※当日申し込み不可
- 募集期限
6月15日（木）午後5時まで
- 申し込み方法
浦添グスク・ようどれ館に電話で申し込み

問 浦添グスク・ようどれ館 ☎（874）9345※月曜休館

6月1日（木）～29日（木） 平和特集

「浦添～平和のかけはし～」

ここ沖縄で、浦添で何があったのだろう……。戦争のない時代が続くよう、資料を紹介します。いま、平和のために一緒に考えてみませんか？



▲ホールにパネルを展示

- 場所／市立図書館 1階エントランスホール周辺
問 浦添市立図書館 ☎（876）4946※月曜休館

6月12日（月）～26日（月） パネル展

平和パネル展

戦時中の写真パネルなどを展示します。



▲以前のパネル展の様子

- 場所／市役所2階 ロビー
問 国際交流課 ☎（876）1258

浦添には、他にない資料があった

「昔の公式資料では、沖縄戦における浦添（村）の戦死者数は3925人。聞き取り調査では4112人で、その差187人が公式記録の戦死者を上回った。（浦添市史から一部抜粋）」

戦死者というところ、かつては戦傷病者戦死者遺族等援護法が適用された数を使い、国が調査したものではありませんでした。

数に差がある理由は、証言記録が示す通り、焼失した戸籍簿を作成する時に戦死者を除いたり、避難壕で生まれて名もなく亡くなったり、戸籍に記載されず、この世に生を受けたことになっていない人、命をお金に変えられなかった援護法の適用を拒んで戦死者の記録から漏れている人、一家全滅の戦死者などが調査によって判明したものです。

今、何を伝えたいかと問われると

「浦添市史」のために聞き取った、約千人の証言には、伝えたいことはたくさんありますが、中でも戦争が始まる三十年ほど前には、浦添が激戦地になることを想定した軍事演習があったという事も知っておくべきでしょう。

「浦添村は全体が首里の軍司令部を守る最重要陣地だったが、部隊配備に関しては、1913年頃から浦添が軍事上きわめて重要なこと、軍事演習を実施したことが新聞で記されている。北谷からの進撃や、首里からの日本軍の迎撃で、嘉数付近で激戦になることが想定されている。（浦添市史から一部抜粋）」

戦争体験の証言を語るには何時間あっても足りない」と話す石原氏。

「沢岬の交差点付近には、戦車待ち構えて、爆弾を投げるために隠れた人が……」という生々しい話から「スパイの疑いを晴らしてくれた日本兵の母に青森で会えた」という発刊後の後日談など、逸話もさまざま。



▲浦添市史の証言記録について話す石原氏